

OTC 薬、プライマリケアを対象とする

## 薬剤師の臨床判断ワークショップ 2015

### 対象症候『腰痛』

地域におけるプライマリケアの重要な担い手である薬剤師が、来局者の病態を反映する情報や所見を自ら収集して疾患を推測し、適切な対処法を提案・実践するためには、症候学に基づいた臨床判断能力と薬学的管理能力が必要不可欠です。

本ワークショップでは、臨床判断能力の養成に焦点を当て、薬局にしばしば来局する「腰痛」を訴える来局者を例に「効果的な情報収集と疾患の推測（症候からの鑑別）」さらに「疾患や重症度に応じた適切な対処法の提案と実践（トリアージ）」の2つのプロセスについて、簡単な演習とロールプレイを交えた参加型セミナーの形で習得して頂く研修プログラムです。

本ワークショップにてプライマリケアの担い手としての実践的な能力を養成して頂き、少しでも日々の業務に反映して頂けたら幸いです。

日時：2015年11月8日（日）9:00～18:00（受付開始：8:30）

会場：昭和大学薬学部 旗の台キャンパス 16号館（東京都品川区）

[http://www.showa-u.ac.jp/about\\_us/campus/index.html#access](http://www.showa-u.ac.jp/about_us/campus/index.html#access)

企画：木内祐二 先生（昭和大学薬学部）、狭間研至 先生（ファルメディコ(株)）

日本アプライド・セラピューティクス学会 OTC 薬検討委員会

#### 概要

「腰痛」に対する臨床判断

患者からの情報収集と疾患の鑑別

患者に対するトリアージのプラン作成

— グループ討議とロールプレイを中心に —

募集人数：一般参加：40名（1グループ10名） プリセプター参加：10名

参加費：正会員・準会員 5000円 学生会員 2000円 非会員：10000円

参加申込：メール件名を「臨床判断ワークショップ2015 腰痛 参加希望」として、

一般参加あるいはプリセプター参加のどちらかを明記の上、所属、氏名、会員/準会員/学生会員/非会員、連絡用アドレスをご記入のうえ、下記アドレス宛お送りください

[apusera\\_ws01@yahoo.co.jp](mailto:apusera_ws01@yahoo.co.jp)

詳細は、申込者に追ってお送りいたします。

参加締め切り：11月2日（先着順）

尚、プリセプター希望の方は、11月7日（土）16:00(予定)より事前打ち合わせを行いますので、ご出席ください。

ワークショップ認定指導者制度がスタートいたしました。プリセプター参加も募集しています。既に1回以上一般参加されていることが条件です。認定制度は下記のURLを参照して下さい

<http://www.applied-therapeutics.org/page17.html>

日本アプライド・セラピューティクス学会 OTC 薬検討委員会

後援：日本薬剤師会、日本病院薬剤師会

薬剤師研修センター認定(申請中)

日本アプライド・セラピューティクス学会ホームページ：<http://www.applied-therapeutics.org/>

## ワークショップの概要

患者〔顧客〕が対象症候に対し医療にアクセスされる初めとなります。そのため、OTCをお渡しする事で対応出来るのか、診療に行っていただくのがよいのかの判断を行うことが最も重要なこととなります。また、その後の経過や結果に対して責任を持つ意識も大切です。

本ワークショップでは、患者（顧客）が訴える症候から、

- 1) 候補となる原疾患を最大限挙げることができる
- 2) 挙げた原疾患候補の中から、該当する複数の原疾患に絞り込むための判断となるポイントを把握する
- 3) 疾患の特徴を把握し、アルゴリズム表（患者〔顧客〕の疾患を把握する手順表）を作成する
- 4) 様々な患者〔顧客〕に対して、患者の訴えをもとにトリアージを行うプランを作成する
- 5) 学んだ内容をベースに、参加者同士によるロールプレイを行う
- 7) チーム医療 ～情報共有・伝達・経過確認～（紹介状の書き方。TELによる申し送り）

等を行い、実践できるように学びます。

\* 講義やSGD（スモールグループディスカッション）、ロールプレイなどで多角的に学びます。

## 目標・ねらい:

- ・腰痛の原疾患における特徴を把握する。
- ・腰痛の原疾患に対して、軽度～重度までのトリアージ（経過観察、生活習慣指導、OTC薬推奨、受診勧奨、緊急対応）ができるようにする。
- ・症候から疾患を推測できるようにする。
- ・患者〔顧客〕に対して安易に受診勧告としないで、可能な限り責任を持って対処法を提案できるようになり、プライマリケアの担い手になれるようにする。
- ・OTC医薬品の選別にとどまらず、その後の経過や結果を確認する視点をもつようにする。
- ・医師との連携も取れるようにする。